

■第20章

- 1) 密集位置と開離位置(close position&open position)
- 2) 基本形と転回形 (root position&inversion)
 - 2-1) 基本形 (root position/基本型)
 - 2-2) 第一転回形 (first inversion/第一転回型)
 - 2-3) 第二転回形 (second inversion/第二転回型)
 - 2-4) 第三転回形 (third inversion/第三転回型)

1) 密集位置と開離位置(close position&open position)

これまで学んできた「トライアド」や「7thコード」では、ルートが一番下に位置し、その上に三度ずつ構成音が積み重ねられていました。ところが実際の音楽の中では、楽器が持つ特性や作曲者の意志などによってコードの構成音は様々な位置に変わります。

コードの構成音が全て1オクターブ内に配置された状態を「密集位置」(close position)と言います。それに対し、構成音が1オクターブ以上広い音程(9度以上)で並んだ状態を「開離位置」(open position)と言います。次は密集位置と開離位置に並べ替えた「C」です。

example 20-1

密集位置(1,3,5) 開離位置(1,5,3) 開離位置(1,3,1,5)

さらにコードは「転回」させる事によって構成音の配列を替える事ができます。まず最初に密集位置での様々な転回形について見てみましょう。